

佐々木 一 隆（宇都宮大学国際学部長、国際学部教授）

皆さん、おはようございます。ご参加いただきまして、厚く御礼申し上げます。このシンポジウムは、多文化公共圏センターと日光市国際交流協会主催という形で進められます。宇都宮大学国際学部は地域のグローバル化と地域からのグローバル化の両面に取り組んでいますが、今回のシンポジウムは、地域のグローバル化に該当するものではないかと捉えております。また、この学部あるいは多文化公共圏センターは、多様性を重視する、あるいは尊重するというのが特徴的です。多分、今日のシンポジウムもそれが反映される形で行われるのではないかと期待しております。先ほど倪先生からご紹介がありましたけれども、テーマは国際交流都市日光の再発見ということで、本シンポジウムはこのテーマで連綿と続けられております。その特徴は留学生と考える、というところにあります。あるいは、もう少し広くとると外国にルーツがある学生と考える、というように言ってもよいかと思います。そして、今年の特徴は日光のインバウンドに焦点を合わせるということです。少しさかのぼりますと、去年は観光モデルということで日光や奥日光を取り上げましたし、さらに一昨年については足尾の歴史ということで、足尾も今は日光市の中ですので、そうした経緯で取り組んできたというところがあります。本日は1部と2部という構成で、1部は鈴木様と康様、野口様、増淵様からご講話いただきます。それから第2部では学生さんが参加し、伊東様からもコメントをいただく予定です。今回もぜひ学ばせていただきたいと思います。楽しみにしております。本日もどうぞよろしく願いいたします。